

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記号設問・記号正誤・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は今年の2題から3題に増加し、論述の総字数も740字から900字に増加した。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年に続いて資料・図版を使用した問題が出題されたが、昨年出題された表・グラフを使用した問題は出題されなかった。

昨年は出題されなかった、短文の下線部の正誤を判定する問題が出題された。

その他トピックス

昨年はすべて文学部と共通問題であったが、本年は大問3題のうち1題が文学部と別の問題になった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	記号設問 論述	イル＝ハン国の外交書簡 (資料使用)	問1 資料中の「皇帝」の事績を問う問題。「皇帝」がフビライであると判断できるかがポイント。 問2 資料中の「フランス王」の事績を問う問題。「フランス王」は、外交書簡が出された時期と選択肢の内容からフィリップ4世であると判断できる。 問3 フランス王がイル＝ハン国の君主に同盟の提案を行った背景について、外交書簡が書かれるまでの約200年間のユーラシア西方の情勢を念頭において説明する問題。十字軍の推移とモンゴルの西方進出について述べ、フランスとモンゴルがともにマムルーク朝と戦ったことに触れればよい。 300字程度。	標準
(II)	記号正誤 論述	世界図に見るヨーロッパと日本の情報交換の歴史 (図版使用)	問1 世界図が作製された地域について述べた短文の下線部の正誤を判定する問題。ハンムラビ法典がアッカド語で記されていたという知識は、受験生には難しいが、消去法で解答できる。 問2 ヨーロッパで14世紀から17世紀に世界図の変化が見られた背景について述べた短文から、適切なものを選ぶ問題。選択肢の文に記された内容の正誤を判定するのは難しい。 問3 日本で18世紀から19世紀に世界図の変化が見られた背景について述べた短文から、適切でないものを選ぶ問題。 問4 6枚の世界図から読み取れるヨーロッパと日本の情報交換の歴史について説明する問題。図1～図6の解説や問1～問3の内容をどれだけ踏まえて書けるかがポイント。 200字程度。	やや難

(Ⅲ)	論述	第一次世界大戦後の国際秩序 (資料使用)	<p>問1 ケロッグ＝ブリアン条約締結に至ったヨーロッパにおける歴史的背景と、この条約が軽視された理由を国際連盟と関連づけて説明する問題。締結の背景としてはドイツの賠償問題の推移と国際協調の機運の高まり、軽視された理由としては国際連盟の欠陥について述べればよい。 200字程度。</p> <p>問2 第一次世界大戦から第二次世界大戦の間の時期の侵略戦争と、それに対して国際連盟が機能しなかった経緯を説明する問題。下線部①と下線部②に類似する事例が求められているが、下線部①の南アメリカの事例は難しいので、下線部②に類似した事例であるイタリアのエチオピア侵略について書けばよい。 200字程度。</p>	やや難
-----	----	-------------------------	--	-----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

近年の傾向として資料・図版や表・グラフなどが使用されており、戸惑うかもしれないが、問われているのは教科書をしっかり学習していれば十分対応できる内容である。ただ、そのためには資料が何を述べているのかを読み取る国語力、図版や表などから得られる情報と歴史的知識を総合して考える力が必要である。出題地域はアジア・欧米と幅広く、時代的にも古代から現代に及ぶので、教科書中心の丁寧な学習を心がけたい。本年は出題されなかったが、手薄になりがちな東南アジア史・内陸アジア史・戦後史もしばしば出題されるので、おろそかにしないこと。論述問題については、過去問を参考にして十分に練習しておこう。